

わかたけ

春日部市立武里小学校
児童数 494名
令和5年10月27日発行

ピンチに出会ったら・・・

校長 加納 敏幸

「人生は大ピンチの連続だ」「この一冊で、もういつピンチが来ても大丈夫だ！」そんなキャッチコピーの本をご存じでしょうか。実際は本ではなく絵本「大ピンチずかん」。

日常生活の中に潜んでいる子供たちにとっては「大ピンチ」となるハプニングを、ピンチレベルの大きさとピンチに出会う確率（なりやすさ）を5段階で分類し、レベルの小さいハプニングから紹介しています。

「ストローが取れない」大ピンチレベル5、なりやすさ3。「お風呂のお湯がない」大ピンチレベル50、なりやすさ2。「フンをふんだ」大ピンチレベル90、なりやすさ5など、子供はもちろん、大人も1度は経験したようなピンチが紹介されています。

そんなピンチについて大人として振り返ると、「そんな時はこうすればいい」と簡単に解決方法が思い浮かぶような小さなピンチです。しかし、子供たちにとってはどうでしょうか。突然のピンチは、まさに大ピンチ。「どうしようか?」「困ったな」と右往左往することでしょう。

子供でも身近な言葉である“ピンチ”の意味は、追い詰められた苦しい状態・苦境・危機・窮地。例え小さなピンチであっても子供たちにとっては、大きな危機。そんなピンチをどのように乗り切るかは、子供たちの腕の見せ所になるかもしれません。では、もし子供のピンチを大人として目にしてしまったら、皆さまはどのように対応するのでしょうか。命に関わるようなピンチは別とします。①すぐに手を差し伸べる。②ぎりぎりまで見守り、最後は手を差し伸べる。③最後まで手を出さず見守る。多くの方は②または①を選ぶでしょうか。理想は③ですが、私も②を考えます。

大人とすると、「目の前の子供のピンチを何とかしてあげたい」「自分で解決させたいけど待ってはられない」等により、手や口を出してしまう。いちばん避けたいのは、「何をやっているの!」と怒ってしまうこと。そして最後は、「わかった」と伝え、子供は「うん」と答える。この場面を子供の立場で考えると、「また言われちゃった」「早く終わりにしたいから黙って聞いておこう」のように、例えピンチは回避できても、子供たちにとっては、消極的な思考が大きくなるように思います。多くの人は、失敗を恐れると、失敗しないようにと考えます。すると、何もしなくなる。つまり行動をしなくなる心配ができてきます。

日常では、ピンチとまではいなくても、自分の思いどおりにいかないことが多く起こります。「ピンチはチャンス」とも言われます。そんな時こそ私たち大人は、「失敗しても大丈夫」と子供たちに考えさせ自分で行動させていきたいと思えます。

大ピンチずかんにある大ピンチレベル100は「どしゃぶりなのにかさがない」。その次のページには、そっと自分のかさを差し出し助けてくれる子供が描かれています。

「なんて おれいをいったらいいかわからない」これも大ピンチでしょうか。

わかたけスポーツフェスティバル150が行われました

9月30日(土)、「わかたけスポーツフェスティバル150」が行われました。日頃の練習の成果を発揮することができました。保護者の皆様、応援ありがとうございました。また、アンケート調査へのご協力ありがとうございました。今後に生かしてまいります。



たくさんの学びがありました!

2年生校外学習

10月5日(木)に茨城県自然博物館へ行ってきました。宇宙のこと、地球の歴史、自然のしくみ、生命のしくみ、環境のことなど自然についてたくさん学ぶことができました。巨大なキノコがあるなど、小さな生き物になった気分で学べるコーナーもありました。バスの中ではビンゴゲームをみんなで協力して行っていました。



3年生社会科学習

10月11日(水)に、移動スーパーが学校に来ました。買い物をとおして、働きを学ぶことができました。また、19日(木)は、昔のくらしと市場のしくみについて、「埼玉県歴史と民俗の博物館」と「春日部市場」で学びました。はじめて見たこと、体験したことがたくさんあり、とても勉強になった1日でした。



4年生社会科見学

10月10日(火)に、龍Q館(首都圏外郭放水路)と東埼玉資源環境組合(越谷リユース)に行ってきました。ごみ処理のしかたや洪水を防ぐためのしくみを学ぶことができました。



「武小読書まつり」

10月10日(火)から11月10日(金)までの1か月間、「武小読書まつり」を開催しています。りんごのカードに読んだ冊数分のシールを貼ります。低学年は15冊以上、中学年は10冊以上、高学年は5冊以上図書室の本を借りて読んだ児童を表彰します。多くの児童が本に親しんでくれることと思います。